

(伊佐郡菱刈町田中)

位置と環境

遺跡の東方を川内川支流の田中川が南流している。遺跡は、盆地外輪山を形成する丘陵の末端部に位置し、南方はすぐ田園部に面する。遺跡の北東200m余りのところには、池水寛治によって発掘調査が行われた縄文時代早期～前期の遺跡が所在する。

調査の経緯

昭和26年頃、新原暲太郎所有の畑地より須恵器壺に入った人形・馬形土製品が採集された。その後、須恵器壺と人形土製品の足の一部（1個）は菱刈町立田中小学校に保管され、ほかの人形・馬形土製品は近隣の岡野遺跡出土の土製品と混在して菱刈町教育委員会に保管されていた。松崎正治の記録帳をもとに津栗野遺跡出土と岡野遺跡出土のものが判別された（新東1978）。

遺構と遺物

早い採集品のため、出土状況は不明である。出土品は、須恵器壺1個、人形土製品（足の一部）1点、馬形土製品2個がある。

須恵器壺は、底部高台と口縁部の一部は欠損している。現存器高19.5cm、口縁内径8.4cm、胴部最大径23.2cmを計る。色調は暗灰色で、口縁部から頸部には自然釉がかかっている。内面にはあて具痕はみられず、外面にもタタキ目痕はなく、水引状の丁寧な仕上げがみられる。なお、底部中央に外側からの穿孔が一孔ある。

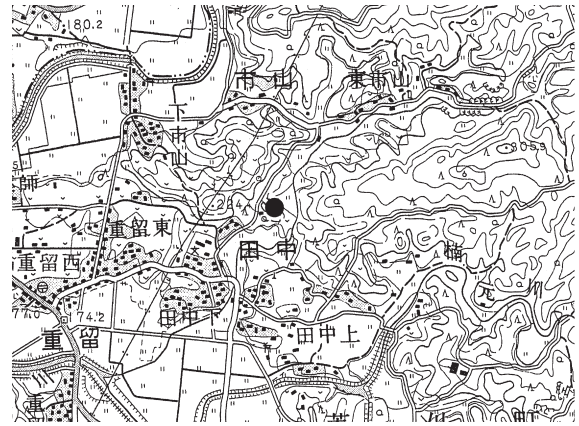
人形土製品は、足の一部が須恵器壺の中に残存していた。現存高3.2cmで赤褐色を呈する。

馬形土製品は、裸馬が2個現存する。目・口・たて髪は丁寧な表現が行われ、色調は黄褐色を呈し、色調と粘土の胎土に岡野遺跡例と相違がみられる。

特徴

採集品で出土状況が不確かなため、遺跡の性格は不明であるが、その形態と形状から須恵器壺は奈良時代に属する骨臓器が考えられる。しかし、火葬骨は発見されていないため断定は出来ない。

なお、岡野遺跡では、木炭を充満した炉状の石囲



第1図 津栗野遺跡の位置

いの中に人形土製品（10個）と馬形土製品（10個）と土板状土製品（10個）が土師器甕に埋納された例があるが、このような祭祀形態も想定されるが火葬墓との関係も注目される。

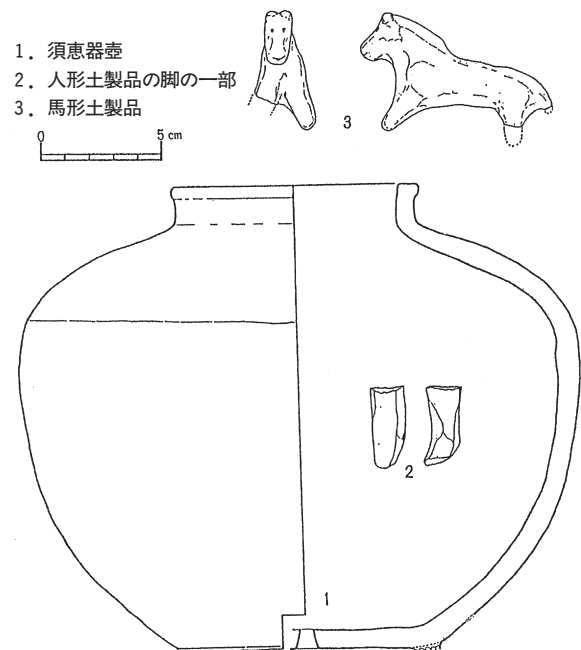
資料の所在

出土遺物は、菱刈町教育委員会に保管されている。

参考文献

新東晃一1978「南九州における人形・馬形土製品の祭祀形態」『古代文化』第30巻第2号

(新東晃一)



第2図 津栗野遺跡・出土遺物